

ためなが温泉病院

(平成 25 年 12 月 5 日訪問)

平均在院日数 669 日 (平成 25 年 12 月 1 日時点)

積極的な取り組みなど

- ・ 病棟の建て替えや改修により、療養環境が改善されていた。ベッド毎にカーテンが設置されていた。
- ・ 前回訪問時の平均在院日数は 2,271 日(平成 20 年 5 月 16 日時点)だったが、今回は 669 日だった。

前回の訪問(平成 20 年 5 月)から改善されていたことなど

前回の訪問以降に改修工事が行われており、トイレは故障しているようなところはなく、トイレットペーパーが設置され、清潔感があった。1 階にあった隔離室は 2 階と 3 階の詰所前に移動して新たに造られていた。また、畳部屋はなくなり病室のベッド周りにはカーテンと床頭台が設置されていた。

前は分煙がなされていたが、今回は病棟内では禁煙になっていた。金銭を患者全員が一旦病院に預けることについては、自己管理をする患者が病院全体で 5~6 名いた。トイレや病室などでの便や尿の臭いは前回ほどはしなかった。

薬の受け取り方が 2A と 3A 病棟では歩ける患者は詰所前に並んで受け取る形であること、診察室がなく、詰所で診察が行われていること、人権委員会がなく意見箱が活用されていないこと、窓に鉄格子があることについては、変わっていなかった。

病院全体

意見箱

意見箱は月 1 回、師長が回収して理事会で検討し、投書のあった病棟に回答する。掲示はなかった。意見箱が詰所カウンター上にある病棟もあった。

金銭管理

自己管理をする患者は病院全体で 5~6 名。ほとんどの患者が病院管理だった。管理料は 1 日 100 円。利用明細は家族に渡され、本人には希望がある場合のみ渡される。ロッカーの鍵の使用料は無料。

面会

9:15~17:15。2A と 3A 病棟は病棟内に面会室があり、その他の病棟についてはデイルームや 1 階にある面会室を使ってもらうとのこと。

退院支援

精神保健福祉士は 7 名。病棟担当 4 名、デイケア担当 2 名、その他院内担当 1 名。「高齢の患者が中心になってきている。長期在院者についても介護保険の対象となる 65 歳になるまでには退院してもらい

たいと思っている。病院とは別会社をつくって敷地外にアパートを建てたり(法外施設)、物件を 1 棟(13 室)借りするなどしてグループホーム以外にも退院後の住む場の確保をしている。家賃を月 1.6 万円と安く設定している。昼間はデイナーケアセンターで食事を提供し退院できるよう支援している。PSW だけでなく理事も患者の退院に向けて役所で生活保護の交渉などを行っている」とのことだった。

病棟について

隔離室

2A 病棟と 3A 病棟に 1 室ずつあり、どちらも使用中だった。2A 病棟ではマットと布団が敷かれ、若い知的障害の女性が休んでいた。

詰所から廊下を挟んだ扉の奥に隔離室と 1 人用の浴室があった。隔離室内には入口扉の窓からは見えない位置に洋式トイレがあったが、囲いはなかった。トイレの水洗ボタンのそばに手洗いとトイレットペーパーホルダーがあった。床と壁は木目調だった。ナースコールはなく、モニターカメラがあった。

電話

2B 病棟、3B 病棟、4 階病棟では詰所前のカウンター上にあり、2A 病棟と 3A 病棟では廊下にあった。携帯電話は事務所で預かり、外出時に受け取る。

2A 病棟 閉鎖 女性 精神一般 15:1 42 床

以前は畳部屋だった場所が、詰所になっていた。病室は 1~10 人部屋。10 人部屋の 1 人当たりスペースはベッドと床頭台と歩く幅だけの広さしかない。両隣をピンクのカーテンで仕切っていた。OTから帰ってきた患者らがデイルームや病室で休んでいた。

職員によると、ADL自立に向けてOTの充実などに取組んでいる。自宅に外泊中の患者もいる。

5 名が千里中央駅まで単独外出しており、病院バスに乗りOT散歩で北千里駅まで同伴外出も行っている。看護師とマンツーマンで買物に行くこともあり、国道 171 号線沿いに 1 人で外出する患者もいる。

患者の声

「毎週月曜日に職員から 210 円をもらって外出する。バスに乗らなかった場合などお金が残ったら返す(駅までのバス代は片道が 210 円、駅までの往復については病院バス(無料)も使える)」「障害者手帳の取り方を知りたい。ピアヘルパーとして働きたい」「診察場所は詰所。しっかり話を聞いてくれる先生とそうでない先生がいる」「昨日、薬局の人が重たいファイルを持ってきて、薬の説明をしてくれた」「薬は 1 日 3 回、食前。手持ちしている。3 泊で外泊し自炊もしてきた。退院が近い」「退院したいと訴えても主治医が聞いてくれない。生きてる間にここから出られるのかわからない」「特に問題なく過ごせている」

2階B病棟 閉鎖 女性 精神一般 15:1 69床

病室にはカーテンが掛けられ、背上げ(ギャッチ)機能のある新しいベッドもあった。訪問時、病棟で集団OTが始まり、かなりマイクの声が大きかった。32名が車椅子で参加していた。理容師が病棟に来てカットをしていた。患者が、病室に入ってきたある男性職員に呼びかけたところ、聞こえていないのか答えずに出て行った。次に入ってきた女性職員も、その次に入ってきた女性職員も同じ対応で、計3名が患者の呼びかけに応じないという同じ対応であった。患者によると「ここのスタッフは若いのに耳が遠い人が多いのか、いつもこんな感じ」とのことだった。

患者の声

「入院して4年、この病棟内から出られない。買物は、看護師に伝票で頼む」「眠い。晩の8時15分から配られる薬は部屋に運んで来てくれる。人によっては食堂で飲んでる」「毎日、家に帰って夕食の用意をして病院に帰る」「職員の言葉遣いは、普通。〇〇さんは、優しい。言葉遣いの乱暴な職員も1人いる。傍で聞いていて聞き苦しい」「入浴日が週2回、少ないので、外の風呂屋を利用するしかない。温泉で療養できると言われてここに入ったのに」「強制入院でここに帰ってきた。1年半たつが、外出は一度もない。部屋で寝ていることが多い」「持ち金はない。外にも出られず自分らしくしているのが難しい。先生は『息子がサインしてくれたら退院できる』と言う。息子は『共倒れになるから入院していて』という」「外に買物に行けないのが困る。売店には行けるが、外には出られない」「部屋が狭いからカーテンは使っていない」「入院して2年。家族が『グループホームに出たらお金が高くなる。ここなら月千円だから』と言うもので」「自分は足が悪いのにベッドにブザーがないから、看護師を呼びたくてもすぐに呼べない」

3階A病棟 閉鎖 男性 精神一般 15:1 38床

院外まで外出ができる患者は6名、金銭の管理は自己管理3名、床頭台の鍵を使っている患者6~7名、テレホンカードの自己管理10名。デイルームで話をする患者、ベッドで横になっている患者、入浴やタバコのために並んでいる患者など様々だった。

患者の声

「1日何回かたばこの時間がある。行ける回数は人によって違う」「たばこを吸うために1階に降りるために並んで待っている。決まっている時間を10分以上過ぎてはいるがまだ来ない。よくあること。職員にあわせないといけない。イライラする」「お風呂に入るために並んでいる。並ばないといけないわけではない。することもないから並ぶ」「10年以上入院している。毎日、千里中央駅まで外出をしている。満足している」「37~8年くらい入院している」「毎週職員と一

緒に何人かで近所まで散歩に行く」

3階B病棟 閉鎖 男性 精神一般 15:1 69床

車椅子の患者、歩ける患者がデイルームに集まり、病棟OTが行われていた。歌を歌っていた。病室に残っている患者は寝ていたり、寝たきりの患者だった。

患者の声

「これまでいくつもの施設を転々としてきた」「長い間入院していて困っていることも希望することもない」「毎日ご飯食べて寝て、あいそもくそもない。ひま」「車椅子だから退院できないのか」

4階病棟 閉鎖 男女 精神一般 15:1 48床

身体合併症等で寝たきりの患者ばかりとのことで廊下を歩いている患者はいなかった。ベッド毎のカーテンはひかれていた。デイルームは半分ほどが車椅子置き場になっていた。約半分には机が置かれ、テレビもあった。午前中にはそこでプログラムが実施されていたとのこと。患者が職員を呼んだり、言葉にはならないような呼び声があちこちで聞かれた。

検討していただきたい事項

病室の狭さ

サポーター活動で訪問してきた病院の中で、10人部屋というのは1室の定員としては最も人数が多い。6人部屋はベッド間が詰っていて狭く窮屈に感じた。(病院:現状では旧医療法上の患者1人当たり4.3㎡になっています。数年後には、作業療法センターが建っている場所に新館を建設し、現医療法上の患者1人当たり6.4㎡に移行していきたい。略)

診察時のプライバシー

診察室がないために詰所で診察を行っているとのことだった。(病院:衝立の使用を進めます。)

ベッド周りのカーテンの使用(3B病棟)

いくつかのベッドでは周りのカーテンがカーテンレールの上にひっかけられていて、カーテンを閉めることができないようになっていた。(病院:スタッフに周知徹底した上で、直に改善いたします。)

衣装ケースの設置場所について

3B病棟の多くの病室では、病室内の廊下側の壁沿いにその部屋の患者の衣装ケースの引き出しが5段ほどずつ積まれていた。その横のベッドで寝ている複数の患者によると「しょっちゅう職員がものを取りに来る」「寝ていても職員が横でござごそ何かを取り出したりする。苦情は言えない」とのことだった。訪問時も当たり前のよう大きな音をたてて出し入れする職員を見かけたが、すぐ隣で寝ている患者に対して「失礼します」など一言あってもよいのではなかったかと思った。(病院:衣装ケース設置場所について

検討し、移設出来る場所が見つかり次第移設いたします。それまでの間は、患者が不快に思われないよう職員が配慮した対応をする事を徹底いたします。)

電話の設置場所

2B病棟、3B病棟、4階病棟では詰所前のカウンター上、2A病棟と3A病棟では廊下にあった。それぞれ人通りが多い位置だが囲い等はなかった。(病院:廊下への囲いは廊下幅を考慮すると困難なため、今後、移設する場所の検討を行っていく予定です。)

洗濯機の設置について

病院側によると作業療法センターの洗濯機を使っている患者も3名いるとのことだったが、病棟内には患者が使える洗濯機がなく、ほとんどの患者が病棟に洗濯してもらわないといけな。そしてそのために「洋服にマジックで名前を書かれた」と、患者から不満の声があった。(病院:前向きに検討していきます。それまでの間は作業療法センターの洗濯機が利用できることを患者に周知致します。洋服にマジックで名前を書く方法ではなく、衣類がどの患者の物か判断出来る方法を考えていきます。)

治療計画、退院支援について

前回訪問時の平均在院日数は2,271日(平成20年5月16日時点)だったが、今回は669日だった。それでも全国的な平均から見ると2倍以上の長さである。患者から「不満はない」との声がある一方で、「退院したいけれど誰も相談にのってくれない」、薬や病気の説明について「ない」との声があった。(病院:相談窓口を患者に伝え、一層、患者からの相談に対応していきます。現在、看護計画の作成は行っています。そこに、退院計画も記載し、患者に伝えるようにしていきます。)

プライバシーが守られるポータブルトイレの設置について

2B病棟ではポータブルトイレがベッド周りのカーテンの外に設置されている所があった。ポータブルトイレを使用すれば廊下から見える。(病院:カーテンの外に設置されているのであれば、カーテン内に移動するか、出来ない場合には、衝立などを設置いたします。)

薬の渡し方について

2Aと3A病棟では、歩ける患者は基本的には薬は自分で詰所へ取りに行くことになっていた。2B病棟では「薬は詰所隣にあるトイレ洗面台の前に食前薬のためにずらっと並ぶ」との声があった。(病院:安全対策委員会などの委員会に諮り、当院にあった方法を検討いたします。)

鉄格子について

鉄格子は入院患者に圧迫感と屈辱感を与え、また、精神科病院を象徴するものとして、これまで「鍵と鉄格子」という表現がしばしば用いられ、それが精

神障害者に対する偏見を助長してきたことを考えると、その取り外しを検討していただきたい。(病院:外壁工事などの実施時に検討いたします。)

患者への情報提供について

複数の患者から「薬の説明を聞いていない」「病気の説明は聞いていない」「病名は聞いていない」との声があった。社会資源の情報として2A病棟と3A病棟では電話の横に冊子が置かれていたが、それは大阪府が平成元年に作成した「テレホンガイド」だった。その他には地域の社会資源の案内やポスターはなかった。(病院:服薬指導、疾患教育など患者自身を含めたカンファレンスを積極的に行い、また、「テレホンガイド」の様な資料は、病院側から出来るだけ積極的に資料や情報の提供を行っていきます。)

意見箱の活用

意見箱への投書に対する病院からの回答は掲示されていなかった。(病院:意見箱への投書の内容とその投書に対する病院の回答を患者が見易い様に掲示していく方向で検討を進めていきます。)

人権委員会

前回の報告書で検討をお願いしていた病室やトイレ、隔離室の療養環境は、改修工事によって改善されていたが、電話の設置場所、意見箱の活用、薬の渡し方等、変わってはいないこともいくつかあった。(病院:患者の療養環境については、現状でも前向きに改善に取り組んでおります。さらに、療養環境など患者の人権を話し合う機会を定期的に開催していく方向で取り組んでいきます。)

入浴回数について

夏場は週3回であるがそれ以外の時期は入浴回数が週2回だった。(病院:週3回にすることや、リハビリテーションセンターの浴場を希望される入院患者に利用頂けるように前向きに検討いたします。)

おたずね

● 2B病棟では、患者から「ご飯は食堂で、朝6時半から、昼12時から、夕5時45分から」との声がありました。(病院:食事場所はデイルーム、時間は日によって10分程度の変動はありますが、朝は7時半、昼は12時、夕は6時から喫食して頂いております。)

精神保健福祉資料より(平成25.6.30時点)

262名の入院者のうち統合失調症群が136名(52%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が83名(32%)、精神作用物質による精神及び行動の障害21名(8%)。入院形態は任意入院111名(42%)、医療保護入院150名(57%)。在院期間は1年未満が76名(29%)、1年以上5年未満の患者が92名(35%)、5年以上10年未満の患者が41名(16%)、10年以上20年未満が34名(13%)、20年以上19名(7%)。